

環境ボランティアサークル亀の子隊

調査団体名 : 環境ボランティアサークル亀の子隊
 設立年 : 1999(H11)年12月
 団体URL : <http://kamenoko.org/>
 活動拠点 : 愛知県田原市渥美 西の浜
 取材日 : 2017年12月26日

団体代表者名 : 鈴木吉春
 対応してくれた人の名前 : 鈴木吉春
 調査員 : 高橋伸夫、服部朋悦
 レポート作成者 : 高橋伸夫

活動内容

校区の西側に位置する西の浜に打ち上げられるゴミの清掃が目に見える活動ですが、単なる海岸清掃だけが目的ではありません。子どもたちの自発的活動の意思を尊重し、西の浜を見つめなおすことで校区の自然に目を向け、ゴミのない美しい浜にするという活動を通して、地域と自然を愛する心を育てることを目的とした活動です。体験的環境学習としての「海の環境を学ぶ会」も行っています。

キャッチフレーズ

思いが広がる、思いがつながる～きれいな海をまもるためのプロジェクト

会のモットー(何を大切にしているか)

「子供たちの主体性を大切にしている。」

活動に来てても細かな指示はせず、ごみ拾いに来てても、海が楽しいので海で遊ぶ。遊んじゃう。それが一番大事。そうやって海のよさも知ってもらい、反対に「ごみもあるじゃんね」「そうだね」と言って理解し行動する。そういった子供たちの主体性を大事にしたい。

設立から現在に至るまで変化したこと

最初は小学校授業の総合学習で始まりました。

子供たちにふるさとを愛する心を育てたいというのが奥にある目的で、ごみを拾う活動でした。

ごみ拾いしているだけでは、「海」、「西の浜」はきれいになっていかない、それで、いろんな人たちとつながる必要があると考え、1回100件ぐらい手紙作戦を、愛知県、三重県、流域の企業さんへ出して、いろんな組織に声をかけ、組織に入って、そこからヒントをもらって亀の子隊の活動の中に取り入れてやってきました。

変化というよりも、だんだんだんだん幅が広がってきたという感じです。

連携している団体・専門家・自治体など

渥美青年経済研究会、渥美釣りクラブ、第4管区海上保安本部蒲郡保安署、休暇村伊良湖、田原市役所関係部署、田原市社会福祉協議会、田原市ボランティア連絡協議会、渥美NPO、国土交通省中部地方整備局(三河港湾事務所ほか)、福江高等学校、福江中学校ドリームの会、豊川市佐奈川の会、西尾市社会福祉協議会、豊田市アド清流愛護会、豊田市矢作川研究所、愛知県環境部資源循環推進課、東三河農林水産事務所、名古屋汽船(株)、グリーン海事(株)トヨタ紡織(株)、リコー中部(株)、長坂(株)、CNAC(全国海に学ぶ体験協議会)、渥美半島生態系ネットワーク、他

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、地域資源の活用など)

渥美半島環境活動協議会というのをつくって、渥美半島で環境活動している人たちが緩やかに寄ってきて、いろんな渥美半島の中の課題を見つけて、みんなで相談し合いながら解決していくことを行っています。

今年は、若者ミーティングを行い、30代の青年会議所や、渥美の青年経済研究会のメンバーを呼んで話し合いをしました。その中で、「渥美半島のことをあまり知らない」「環境問題も知らない」など意見がありました。

ただ、漁業や農業に携わっている子たちは、「漁獲が減っている。魚種が減っている。」農業も「全国的には無農薬でやってきているところが増えてきているのに、渥美半島はいつまでたっても農薬をばらまいている。」などの話の中で、それらの影響とか話題はわかっているのに、もっと意識づけをしていかなければいけないと思っています。

現在直面している課題

やっぱり人、スタッフです。参加者は多いのにスタッフが少ないので、もう少し多くのスタッフが必要です。

参加者の数は、西の浜のこのごみクリーンアップ活動などでトヨタ自動車の田原工場さん、豊田紡織さんの豊橋工場さんとかも来てくれて、今年1,600人ぐらい来て来ています。企業の力は大きいです。学ぶ会はほとんど地元の子たちですが、毎年延べ200人を超えています。

また、他に資金も不足気味です。

今後やってみたいこと

エコツアーを多くやりたいです。海をきれいにするという思いを広げて、伊勢湾流域圏の上流域の人たちに伊勢湾の実情を知ってもらいたい。

伊勢湾上流域の人たちに来てもらって、現実の西の浜の姿を見て、考えてもらう必要があります。ごみ拾いだけでなく、プラスしてエコツアーということで学ぶ会として行っている「タッチングプール」や「海水からの塩づくり」を体験してもらいたいと思います。

実は去年までに3回実施しており、今年も2回実施しましたが、そんなエコツアーを拡充していければよいと思っています。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

これまでも豊田市の団体との繋がりが多く参加がありましたが、最近では絶えています。上流域との繋がりが情報を得るためには矢作川流域圏懇談会のような団体は有用と思います。また、エコツアーには大学生の参加も多く欲しいので大学との繋がりが必要と思います。

その他、伝えたいこと

西の浜にも建物「ネイチャーセンター」が欲しいです。

管理ができて、道具も置いて、目の前ですぐ出しておみ拾いも常時活動できる場所。

この施設で天然ゴミの流木や草本をエネルギーとして利用できればなお良いと思います。

チームオリジナルの質問

<質問内容>団体名の由来は？

<答え>亀山小学校の子供たちの活動、亀山の子…から「亀の子」隊と名付けました。

チームオリジナルの質問

<質問内容>活動のきっかけと経過は？

<答え>1998(H10)年、当時、亀山小学校4年生が西の浜に出かけたときにあまりのゴミの多さに驚き、ゴミを拾い集めました。「最終処分場よりもひどい！」「西の浜はゴミ箱じゃない！」と怒りの声を上げ、子どもたちの総合的学習の中で、『西の浜はゴミ箱じゃない！』をテーマに、西の浜をきれいにするために自分たちができることを考えようと学習を始めました。

学校活動と区別するため、子どもたちの自発的活動の意思を尊重し、周囲の組織にとらわれることなく活動ができるように、サークルを立ち上げるための話し合いを子どもたちと行い、『環境ボランティアサークル 亀の子隊』として活動をすすめることになりました。平成11年12月、渥美町の社会福祉協議会に「環境ボランティアサークル」として正式に登録をしました。

チームオリジナルの質問

<質問内容>初期とは違う、ということが何かありますか？

<答え>1998年(H10年)、当時、亀山小学校4年生が西の浜に出かけたときにあまりのゴミの多さに驚き、ゴミを拾い集めました。「最終処分場よりもひどい！」「西の浜はゴミ箱じゃない！」と怒りの声を上げ子どもたちの総合的学習の中で『西の浜はゴミ箱じゃない！』をテーマに西の浜をきれいにするために自分たちができることを考えようと学習を始めました。

学校活動と区別するため、子どもたちの自発的活動の意思を尊重し、周囲の組織にとらわれることなく活動ができるように、サークルを立ち上げるための話し合いを子どもたちと行い、『環境ボランティアサークル 亀の子隊』として活動をすすめることになりました。平成11年12月、渥美町の社会福祉協議会に「環境ボランティアサークル」として正式に登録をしました。地域外のイベントに呼ばれるようになってきたことです。

初めの5、6年はありませんでしたが、愛知万博から、全国ボランティアフェスティバルとか東三河のボランティア集会などに何度も呼ばれています。

当初は、西の浜のごみを拾う活動やごみを減らす活動だけでしたが、活動の流れの中で外部の方から認知をいただいて...うちにも来てその活動をと声を掛けていただくようになりました。

会として積極的に情報共有とか情報発信をするようになったことが、変わってきたことです。

チームオリジナルの質問

<質問内容>隊員構成は？

<答え>2017(H29)年度 隊員数94名

- ・亀の子隊 50名(内 1期隊員14名含む)
- ・親亀 12名 亀の子隊員の保護者の中で活動を支援・協力される方
- ・賛助隊員 23名 活動資金(年間3000円以上)援助をされる方
- ・支援ボランティア 5名 事務局の手伝いをされる方や毎月の活動に参加される方(不特定)
- ・事務局 4名

写真



写真

